

Ⅲ 目指す児童像にせまるための各教科別授業改善推進プラン

国語科

教科としての重点

- 語彙を増やしたり、文章を正しく読み取ったりするために、読書量を増やす。
- 口をしっかりと動かして、大きな声ですらすらと音読できるようにする。
- 場に合った声の大ききで、聞き手に伝わるように話せるようにする。
- 自分の考えに自信をもって表現できるよう、まず短い文に書くようにする。

各学年における具体的な取り組み

低学年

- ・ 入門期には教師の読み聞かせにより読書への関心・意欲を高め、2年生では全ての児童が自分で選んだ本を一人で読めるようにする。
- ・ 1年生入門期指導の母音の口形を入門期だけの指導にとどめず、音読の際には全児童に目を配り、口形を意識して音読する習慣を身に付けさせる。また、グループ読みや一人読みでは一人一人の声がしっかり出ているか確認し、全員がみんなに届く声を出せるようにする。(高学年まで共通)
- ・ 考えたこと、思ったこと、分かったことなど、文章に書く習慣を身に付けさせる。
- ・ グループ内でなど、書いた自分の考えを進んで発表できる場면을意図的に設定する。

中学年

- ・ 4～6名のグループで話し合う場면을各単元で設け、事前に行った自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いて感想をもったりすることに慣れさせる。
- ・ 教材に書かれている文章を的確に読み取る力を付けるため、指示語の指す言葉や部分について考える場면을全ての単元で行う。
- ・ 作文単元では、思ったことや感じたことを書く指導を徹底する。

高学年

- ・ クラスみんなの前で、自分の考えが伝わるように一人一人が発表する場면을意図的に設け、友達の意見に対する自分の考えを書く場面を増やし、発表できるようにしていく。
- ・ 作文単元では、自分の考えの根拠を書く指導を必ず取り入れる。
- ・ 説明文や物語文に書かれている内容に対して、自分の意見を書いたり、発表する場面を計画的に設定する。

社会科

教科としての重点

- 教科書、副読本、資料集や図書館、コンピュータなどを活用して、資料の収集・活用・整理などの活動を行う。
- 観察や調査・見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動を一層充実する。
- ポスター、パンフレット、新聞にまとめる学習やグループでの話し合い活動、パネルディスカッション的話し合いなどをすすんで取り入れ、自分の考えを表現する機会を増やす。

各学年における具体的な取り組み

中学年

- ・ 授業においては、児童が気付いたことや分かったこと、感想を大事にさせ、日頃からノートにしっかり書かせるようにする。
- ・ 町探検など、自分たちの住んでいる身近な地域や立川市について、直接観察したり、調査したりする活動を積極的に取り入れる。
- ・ 観察や調査、見学したことをグループで話し合ったり、まとめたりする活動を十分確保する。
- ・ 観察や調査、見学したこと及びそれらを基に考えたことを、絵地図やポスター、パンフレットなどにまとめ、表現する活動を計画的に取り入れる。

高学年

- ・ 授業においては、協働的な話し合いを大事にし、一斉授業及び、グループでの話し合いにおいても、友達の見解と関連させながら、自分の意見を発表させるようにする。
- ・ 教科書、資料集、地図帳を資料として十分活用できるよう指導し、必要に応じて図書館やパソコン室のネット資料などから、適切な資料の収集ができるようにする。
- ・ 観察や調査、見学したことをグループで話し合ったり、まとめたりする活動を十分確保する。
- ・ 観察や調査、見学したこと及びそれらを基に考えたことを、分かったことや感想、意見、疑問にしっかり分けながら学習新聞にまとめ、表現する活動を計画的に取り入れる。

算数科

教科としての重点

- 計算や図等から読み取った情報をみんなが分かるようにまとめる力を付ける。
- 既習したことを基礎にして新たな課題を見出し、意見を出し合って追究する態度を育成する。
- 自分の考えを言葉や数、式、図等を使って表せるようにする。

各学年における具体的な取り組み

低学年

- ・数字や式、答え、筆算の書き方やノートの書き方の基礎をしっかりと身に付け、誰が見ても分かるようにする。
- ・考えたこと、発見したことなどを発表できる場面を意図的に設定する。
- ・図やグラフなど視覚的な情報を多く取り入れて課題を解き、解答までの考え方が伝わるように説明する。

中学年

- ・絵や図、グラフを使って問題を解く場面を意識的に設定し、これらを用いてみんなに説明できるようにする。
- ・自力解決をしていけるように、問題を解いていくために必要な知識や技術の復習を重視し、考えの道筋を発表させる。
- ・考えたこと、発見したこと、分かったことを言葉や数、式、図等を使ってノートに表し、みんなに伝えられるようにする。

高学年

- ・問題を解いていくために必要な知識や技術の定着を図るため、問題を繰り返し解かせ、考えたことを説明できるようにする。
- ・図やグラフを用いながら課題の解き方を言語で表現する場面を増やす。
- ・友達と考えを伝え合う場面を設定し、より簡単に、確実に、正確に問題を解く方法を考え合う。また、友達の方考え方に対して思ったことや発見したことを伝える場面を増やす。

理科

教科としての重点

- 自分の考えや見通しをもって観察・実験できるように、自分の予想を立て、書いたり発表したりする。
- 実験結果や分かったことをノートにまとめ、伝えられるようにする。
- 仮説や実験方法、結果の解釈をグループで話し合い、科学的な見方や考え方を養う。

各学年における具体的な取り組み

中学年

- ・ 動物を飼育したり植物を栽培したりして気付いたことを、その特徴がよく分かるように伝え方を工夫して表す。
- ・ 実験を変化と関係する要因に注目して行い、分かったことをグループで話し合い、みんなに説明する。
- ・ 実験結果の考察では、考えられることを一人一人が発表し、できるだけたくさんの考えを集める。

高学年

- ・ 制御すべき要因と制御しない要因に注目して考えさせ、その要因を発表する。
- ・ 実験前に仮説を立てて実験を行い、結果を解釈する活動では、絵と文で書き表し、それをみんなに分かりやすく伝えたり、話し合ったりする。
- ・ 調べて見い出した問題点を全体の場で発表し、出されたものの中から次に追究することを自分で決め、新たな仮説や実験方法を考えて計画する。

生活科

教科としての重点

- 具体的な活動や体験を通して、気付いたことを基にして考えさせるため、見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動を設定する。
- 身近な人々と自分たちのことを伝え合う活動を行い、進んで交流できるようにする。
- 身近な自然を観察したり、動植物を育てたりして気付いたことを絵や文、言葉や動作などで表現できるようにする。

各学年における具体的な取り組み

1 学年

- ・ 学校や家庭など、自分の身近にいる人々と交流をもち、あいさつや会話などがきちんとできるように練習をする。
- ・ 動物や植物を継続的に飼育・栽培し、愛着をもってそれらの変化や気付いたことを絵や文などで表す。また、気付いたことを言葉や身振りなどで発表できるようにする。

2 学年

- ・ 公共物や公共施設を利用し、安全に正しく利用できるようにする。分かったことや支えてくれている人々について発表する。
- ・ 地域の人々や場所に愛着をもち、インタビュー活動などを通して、進んで会話ができるようにする。
- ・ 自然物や身近にある物を使って、遊びや遊びに使う物を工夫して作り、1年生に教えたり、いっしょに遊んだりして交流を楽しむことができるようにする。

音楽科

教科としての重点

- 楽曲を聴いて、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付けるようにする。
- 様々な表現活動や鑑賞の活動を充実を図るため、友達とのかかわりを大切にしながら授業を計画していく。
- 自分の感じたことや思いを表現できるように工夫する。

各学年における具体的な取り組み

低学年

- ・ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを発表し合ったりして、楽曲や演奏の楽しさに気付けるようにする。
- ・ ペア学習を取り入れ、友達のよいところ見付けながら互いに高め合い、友達と協力しながら進んで音楽活動に取り組めるようにしていく。
- ・ 楽曲の気分を感じ取りながら、思いをもって表現したり音楽づくりしたりするために発問を工夫する。

中学年

- ・ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを発表し合ったり、書いたりして楽曲の特徴や演奏のよさに気付けるようにする。
- ・ グループ活動を取り入れ、友達のよいところ見付けたり、意見交換したりしながら互いに高め合い、主体的に音楽活動に取り組めるようにしていく。
- ・ 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって表現したり音楽づくりするために発問を工夫する。

高学年

- ・ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを発表し合ったり、書いたりして楽曲の特徴や演奏のよさに気付けるようにする。
- ・ グループ活動を取り入れ、友達のよいところ見付けたり、意見交換したりしながら互いに高め合い、主体的に音楽活動に取り組めるようにしていく。
- ・ 曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって表現したり音楽づくりするために発問を工夫する。

図画工作科

教科としての重点

- 感性を働かせて思考・判断し、創意工夫しながら表現したり作品を鑑賞したりする一連の造形活動の中で豊かな情操を育む。
- 造形体験の充実を図りながら、形や色によるコミュニケーションを通じて、生活や社会と豊かにかかわる態度をはぐくむ。
- 感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てるために、自分の思いを語ったり、自分の価値意識をもって批評し合うなど、鑑賞の指導を重視する。

各学年における具体的な取り組み

低学年

- ・ 体全体の感覚を働かせて材料にかかわったり、描いたりつくったりする過程の中でしだいに自分の表したいことを見付け、思いのままに活動できる題材の設定や場のつくり方を工夫する。（「つくりたい」気持ちが生まれる）
- ・ 作品をつくる過程で、自分が表現したことを仲介して友達や教師とコミュニケーションできるようにする。（「みてみて、こんなのつくったよ」と何度も伝えたいくなる）
- ・ 友達の作品を楽しみながら見合う。（「おもしろいね、いいね」と言葉を交わし合う）

中学年

- ・ 様々な材料や場所、形や色などに積極的にかかわったり、初めて試みる表し方に挑んだり、友人の発想に影響を受けたりしながら能動的に造形活動ができるようにする。（「こんなことできるかな、やってみよう」という思いをもつ）
- ・ 作品をつくる過程で自分が考えたことを整理したり、振り返ったりする時間をもつ。思考と意思決定をスケッチや言葉によって記録。（「こう考えて、こうなった」の記録）
- ・ 身近なものや友達の作品を見ながら、自分なりに感じ取ったり伝え合ったりする。（「ここがおもしろいね、いいね」と言葉を交わし合う）

高学年

- ・ 表現の主題をもち、自分らしさを意識しながら作品の構想を練ったり、デザインの能力を働かせて美しさや用途を考えて造形活動をする。（「自分なりにやってみよう」という思いをもつ）
- ・ 作品をつくる過程で自分が考えたことを整理して練ったり、振り返ったりする時間をもつ。思考と意思決定をスケッチや言葉によって記録。（「こう考えて、こうした」の記録）
- ・ 身近な芸術作品や友達の作品を見ながら、作品の意図などを自分なりに感じ取り整理して伝え合う。（「こんな考え方もあるね、こういうところがいいね」と言葉を交わし合う）

家庭科

教科としての重点

- 日常生活の中から課題を見出し、その解決の過程で実践的・体験的な活動を行うことで、しっかりとした自分の考えをもたせる。
- 家庭の一員として課題をもち、家庭でも家族と話し合いながら実践できるように学習活動を展開する。
- 互いに話し合いながら解決策を発見する学習活動を行う。

各学年における具体的な取り組み

5 学年

- ・ 興味・関心をもち、思考を深められるような教材の提示や教具の活用を工夫する。
- ・ 日常生活を家庭科の視点で振り返り、家族の一員としての自覚を促すように学習を進め、家族と話し合う活動を全ての単元に計画する。
- ・ 家庭での仕事を見つめる単元では、それぞれの家庭での様子を発表し合い、自分の家庭に合った手伝いができるようにする。
- ・ 調理実習や裁縫などにおいては、グループ学習とし、お互いにアドバイスし合いながら作業を進められるようにする。
- ・ 家庭と連携し、児童が身に付けた知識、技能などを日常生活に活用できるように、長期休業中はお手伝いカードを用いて実践力を高め、家族からも評価してもらう。

6 学年

- ・ 興味・関心をもち、思考を深められるような教材の提示や教具の活用を工夫する。
- ・ 日常生活を家庭科の視点で振り返り、家族の一員としての自覚を促すように学習を進め、家族と話し合う活動を全ての単元に計画する。
- ・ 毎日の食事や季節に合った生活を考える単元では、それぞれの家庭の様子を発表し合い、自分の家庭に合った生活を送れるようにする。
- ・ 調理実習やプレゼント作りでは、グループで相談しながら作業させ、お互いにアドバイスし合いながら進められるようにする。
- ・ 家庭と連携し、児童が身に付けた知識、技能などを日常生活に活用できるように、長期休業中はお手伝いカードを用いて実践力を高め、家族からも評価してもらう。

体育科

教科としての重点

- 日常的に運動に親しませ、様々な場面で体を動かす機会を増やすことで、どの領域でも運動する楽しさを味わわせ、主体的に取り組めるようにする。
- グループで相談して練習を工夫したり、作戦を立てたりする場面を設定する。
- 活動の振り返りを相談させ、児童相互でアドバイスし合える雰囲気大切にす
る。

各学年における具体的な取り組み

低学年

- ・記入が簡単な分かりやすい学習カードで、自分のめあてをはっきりもたせる。
- ・固定施設などで遊ぶ機会を増やし、順番を守ったり、数をみんなで数えたりさせる。
- ・頑張っている友達に励ましの声やいたわりの声をかけるよう促す。

中学年

- ・ボールゲームでは、チームで相談して練習方法を考えさせたり、試合の作戦を立てさせたりする。
- ・学習の振り返りでは、自分のことだけでなく、友達へのアドバイスを発言するように促す。
- ・保健領域では、小グループで自分たちの体や健康について話し合わせ、考えを深めさせる。

高学年

- ・ボール運動において、マグネット板作戦ボード等を活用させたり、チームで練習方法や試合の作戦を立てさせたりする。
- ・練習や試合の後で、チームごとに振り返りの話し合いの時間を設け、次時のめあてをはっきりともたせる。
- ・個人で行う運動については、分担をはっきりさせて、見ていた友達に具体的なアドバイスをさせる。
- ・保健領域では、小グループで自分たちの体や健康について話し合わせ、考えを深めさせる。

総合的な学習の時間

領域としての重点

- 互いに教え合ったり、学び合ったりする活動を通じて、多様な方法で情報を収集、比較、分類しながら、計画的に課題を解決しようとする学習活動を重視する。
- 伝えたいことに合わせて効果的な表現方法を選び、内容や役割、相手を意識して伝えようとする力を育成をする。

各学年における具体的な取り組み

3 学年

- ・学校周辺や身の回りにいる昆虫について情報を収集し、各グループで分かったことや気付いたことを話し合い、エリアマップや図鑑、紙芝居等にまとめる。
- ・障害のある方々との継続的な交流を通して、その障害を理解し、適切な表現方法を通してコミュニケーションを図る。
- ・七小の歴史をグループで調べ、話し合いながらまとめる活動を行う。
- ・外国語を使ったコミュニケーションを楽しむ。

4 学年

- ・多摩川について調べた下流と上流の様子の違いなどを自分で工夫してまとめる。
- ・障害のある方々とグループごとに話し合いながら活動計画を立て、コミュニケーションを図る。
- ・担当した地域ごとのグループで役割分担を話し合っ決めて、地域の人にインタビューしながら地域安全マップを作成し、絵地図に表して発表する。
- ・外国語を使ったコミュニケーションを楽しむ。

5 学年

- ・八ヶ岳の自然や文化について自分のテーマを決め、自然教室に向けてみんなに伝えるようにまとめる。
- ・お米屋さんから田植えの仕方を聞いたり、質問したりして七小米を栽培し、収穫までの活動を工夫してまとめる。
- ・西東京朝鮮第一初中級学校の5年生との交流を計画し、互いの学校で会話したりゲームをしたりして交流する。
- ・ファーレ立川の鑑賞活動をし、地域社会とアートについて創造的活動を通じて考え合う。

6 学年

- ・朝の読み聞かせ活動など、1年生の学習や生活の様々なお手伝いを最上級生としてどのように行うか、計画的に考えて行動する。
- ・日光の自然や文化について自分のテーマを決め、自然教室に向けてみんなに伝えるようにまとめる。
- ・世界の国々から調べてみたい国や地域を選び、調べる方法を取捨選択し、みんなに理解してもらえるようにまとめ、発表する。